

富山市議会議員 江西照康

令和6年3月定例会 議会傍聴ダイジェスト 令和6年3月11日(月)10時～

持ち時間30分 一問一答方式ケーブルテレビ生放送&インターネット生+録画

3月議会では会派代表質問を行なうことから一般質問はできないと、前月号でお伝えしておりましたが、一般質問最終日に、時間がとれたこと。市長が熟慮すると答弁された家庭ごみ有料化検討議案が上程されたので、市民代表として検討に参加するためこの問題に取り組んでまいります。



20番 江西 照康



市議会 会派 自民党 幹事長
厚生委員会委員
議会改革検討調査会委員
議会報編集委員会委員
各派代表者会議委員
富山市都市計画審議会委員

発行
富山市打出828
江西 照康

江西 照康



拙者 二刀流

富山市議会では、3月議会のみ代表質問の時間が所属議員3名以上の会派に割り当てられます。

年度を締めくくる年度末補正予算と、新年度の当初予算が審議されることから、代表質問は主に、新年度の予算への質問が中心となります。

代表質問は、質問時間のみに制限時間が設定され、答弁時間はその質問に答えるのに必要な分だけで制限はありません。

よって、この代表質問を一般の方が見たらびっくりするのはないかと思うほど長時間を要します。

きつと、誰も最後まで見ることができないでしょう。私の質問以外は(笑)

さて、本議会ではこの代表質問だけを行う予定でしたが、急遽一般質問も行うこととなりました。富山市初の二刀流です。

さすがに本ダイジェストを質問前にお手元に配布することはできないので、ネット配信のみのダイジェストとなります。

本傍聴ダイジェストは、私の質問をご覧いただく際の補助資料として、平成29年12月議会より作成しているもので、本号で、通算22号目の発行となります。

私が質問の際に、どういう考えで質問をするのか、何を目標しているのか、本資料を参考にご覧いただけます。

議会質問は、インターネットで、数日後録画がアップされます。バーコードをスマホで読み取っていただくご覧いただけます。



尚、本紙作成および配布に当たり、第1号より、**政務活動費は一切使用しておりません**

江西照康

Q1 市営住宅のLED化に ついて

私の住む地域の市営住宅で構成する町内会長から、電気料金の値上げが激しく、共益費の値上げを検討しなければならぬところまできている。現在は別途徴収している町内会費からやりくりしているが、自治振興会活動への参加もままならないとの相談を受けた。

それまで市営住宅の共益費の仕組みをよく理解していなかったが、共用駐車場に煌々と光る水銀灯の電気料金などが入居者の負担であるにもかかわらず、電力消費の少ないLED化の計画すらないことが分かった。そこで昨年の3月議会においてこの問題を取り上げたところ、市長は対応を約束してくれた。

そこから、富山市と国との間で協議がなされ、令和6年度から工事が進むこととなったため、本議会の代表質問において、その進捗スケジュールを確認した。

ところが、その予算の半分を占める国の社会資本整備総合交付金の予算割り当てが少ないことから、市内26箇所ある市営住宅全体のLED化が完了するのに7年ほどかかる見込みとのことである。

もう少し早く進めることはできないものか。市長の見解を問う。

Q2 家庭ごみ有料化検討事業について

家庭ごみ有料化を検討する議案が本定例会に上程されてきた。富山市議会自民党は有料化すべきと当局を催促し続けているが、私の所属する会派自民党は、有料化すべきといえるほどの根拠が説明されていないことを主張している。

現在、市町村の6割以上が有料化しているが、その傾向は小さな市町村に多い。何故なら国が有料化の検討を促しているからであり、小さな市町村ほど、国の意向に従う傾向があるのではないかと考える。

有料化すべきかどうかの判断は市町村に任されており、市独自の判断で決定することが地方自治だと考える。実は中核市だけだとみると有料化を実施しているのはR4年時点では、3割に過ぎない。ただし、有料化の流れは間違いないと進んでおり、有料化が有料化を生む流れは強まるであろう。

ごみ有料化で目指す改善指標として「一人当たりのごみ排出量」がある。ただ、家庭から発生する一人当たりの一日のごみ排出量は、少ないところでは3百グラムに対し、多いところでは2千グラムと、単純に比較しても良いものか疑わしいほどの開きがある。

また、ごみ有料化が比較的進んでいる北海道は、有料化手数料が高いにもかかわらず、ごみの排出量が多い。

現在考えられている有料化は、ごみ袋に手数料を乗せるもので、1リットル1円目安で、おそらく45リットル10枚で500円という金額である。この設定が最も多いが、この倍、更には5倍という自治体もある。そして一度有料化すれば、他の自治体が値上げするごとに、同調していく可能性もある。

現在、この45リットル10枚入りは税込み163円で売られているから、3倍ちよつとになるものと思われる。

ところが、昨年ほぼ同様の有料化を予定していた瀬戸市で大きな事件が起きた。有料化値上げ凍結を掲げた市長候補が、自民公明推薦の候補を破り当選したのである。

それにより、ごみ袋の変更のみで状況を見守ることとなった。

ほぼ料金据え置きとなった瀬戸市

富山市は、この瀬戸市の動向と推移を見守ってみるのが良いかもしれない。環境に反することに意見をいうのは、必要な取り組みに逆らうイメージがあることから、様々なことが検証もされないまま進んできた。しかし、ここに来て見直す動きが強まっている。

グリーンウォッシュと呼ばれるものであり、主に企業がそのターゲットであるが、例えば、大手ハンバーガーチェーン店がプラスチックストローをやめ、紙にしたことで環境への貢献をアピールしたところ、代わりの紙ストローが捨てられるだけで何の効果もないことが責められたことや、リサイクル化学繊維を使った大手衣料品店が、そのリサイクルの際にかえって環境への負荷がかかることを誤魔化したというものである。

有料化した多くの自治体と、環境省のごみ有料化のメリットや必要性の主張は、ほぼ同じである。

それが、あたかもそれぞれの自治体の発想のように喧伝されていることは、ある意味グリーンウォッシュかもしれない。

「仕方がない」有料化を受け入れた市民の共通の声である。本当に仕方ないのか、当局の見解を問いたい。

